



ワークライフ・アンバランス。

寄せては返す波の音が、ビーチの心音のようだった。日差しは強いが、シャツを連れ抜けてくる風が心地よく、暑くはない。妻は娘と何を話しているんだろう。さっきからずっと笑っている。まあ、念願の海外旅行だ。上機嫌でなくちゃ困る。二年ぶりの長期休暇。無理して来てよかった。

「またあ？先週末、先々週末。もういい加減にしてよ。その度に私、友達との約束キャンセルしてるんだから。度重なる休日出勤に、妻がキレた。」

「俺だっていい加減にしたいよ。仕方ないだろ、仕事なんだから。」

俺もキレた。頭の中で。今なすべきことは、火に油を注ぐことではないし、今できることが一刻も早く夏休みの予定を妻にプレゼンテーションすることくらいはわかっている。そもそも順序を間違えたのだ。まず、休暇のプランを話し、とここで悪いんだけど……と切り出す。それがビジネス、いや夫婦をやっていく秘訣というものだ。

「ほんと、ゴメンよ。よし、わかった。今年の夏休みは、海外いこう海外、思い切って。アヤも来年から小学校だし、シーズンずらして取れるのも今年のうちだもんね。」

妻の表情は……動かない。

「そうだ、まず服とか買っただ。気分を盛り上げてから……」

窮鼠、舌がすべる。妻の眉間の皺は消えたが、夏のボーナスも……消えたな……。まあ、去年どこにも行ってないし、仕方ないか。

「見て、このワンピース。これ着て、何て言ったって、あの白壁の街とか歩いたらきつと素敵よね。」

まだ5日前だが、妻はパッキングしながらテンションが上がっている。

「あなたのあの麻のジャケットも涼しげでいいわね。」

あれならちゃんとしたディナーも大丈夫でしょ……」

このご機嫌が、半年、いやひと月持ってくれればいいんだが……。家庭を守るのも、大仕事だ。